



1 明科地域学校協働本部連絡会『地域の方が願う学校とは』 4月20日(月)

前号で紹介した連絡会の折、参加された地域の方々に、下記のような内容でアンケートにお答えいただきました。

子どもたちのために、地域の学校が、こんな学校だったらいいな！

○地域に開かれている学校（学校へ行ってよい雰囲気。学校が地域の人々に応援を求め、それに地域の人々が応える。多くの人々が、様々な形で子どもたちと関われる。外部の人々も指導に入って、多様で豊かな教育が営まれる。）

○先生（学校）が地域の良さを学び、子どもたち・保護者へ伝え、育むことが盛んな学校。

○体験・経験を重視した、たくましい学びを大事にする学校。

より地域に開いた学校。そして明科ならではの少人数（小規模）という特性を活かした柔軟な対応ができる体制を整えた学校。子どもの意見を取り入れた取組ができる学校。

○全国的に、不登校児が増えています。一人一人の子どもの原因は様々だと思いますが、どの子どもも、登校できる学校づくりをしていただきたいと思えます。

○先生方が、心身共に健全で、子どもと全力でぶつかれる、そんな先生方に教えてもらえる学校になってほしいです。

○地域の協力は、できる限りのことをして参りますので、この活動を更に広め深めていってほしいと思えます。

TOCO-TONを通して、職員も学ぶ機会をいただいたと思えます。学びの前段階の子どもたちをお預かりして、保育を行っています。昨年度からのつながりで、子どもたちのことを具体的にご相談することもでき、大変ありがたいと思っています。今後も、遊び⇒学びへ変わるその時の連携・共有・理解について、職員同士、更に深めていきたいと思えます。

小学校へ出かける度に、子どもたちは様々なことに興味を持ち、園に帰って真似をしたり、お兄さんお姉さんのすごさを感じて言葉を発したりしています。職員の皆さんのWelcomeの心に感謝です。

学習の中で、「間違いをすることは恥ずかしいことではない」「そこから学んでいくのが大切なことだ」と全員が思える。そういう学校であれば、レジリエンス、あきらめない力がつき、他人を見下さない人間に育っていくのではないかと。

○園・小・中・高の連携が必要だと思われるが、このように実現できていることが素晴らしいと感じました。(接続が大切)

○子ども＝地域＝保護者をつなぐ場所。地域で子どもを育てていく拠点とする。原風景として残り、子どもたちが成人した際に、大好きな故郷として戻ってこられる場所となるよう育てたい。明科地域を知る活動・機会が多く取り入れられていると思いました。

○TOCO-TON 通信で、活動を発信していただいていることが、素晴らしいと思いました。発信ということが大切だと思います。

家庭では、経験・体験できないことができる場所。地域が元気になるために協力できる場所。優しさが生まれる場所。そんな学校になれば嬉しく思います。

○「毎日、学校に行きたい！学校が楽しい！」と思える学校。子どもだけでなく大人も。○教科書だけでは学べないことがたくさん学べる学校。

やりたいことも、自分たちで考え、それに対して、学校・地域でサポートしてくれる環境がある学校。

地域の風習や歴史が簡単に学べる、体験できる学校。なんでも体験できる学校。

地域に開かれた学校。地域と近い学校。

地域の方の顔がもっと分かる。子どもたちみんなが「〇〇のことは△△さん！」と言えるくらいになると…。

学校が地域の交流の拠点になるといいです。

敷居が低く、気軽に立ち寄れる、開かれた場所になるとよい。学校も、地域を巻き込むような活動を仕組んでいきたい。地域も積極的に巻き込まれて参画していきたい。

地域の人たちも、気軽に立ち寄れる学校になればよいと思います。地域や学校のイベントにお互いが参加できるとよいと思います。

例えば、社教の方や民生児童委員さんや、いいまちつくろうかいの方が、気軽に学校に入ってきて居てくださる。生徒や先生が地域にとび出していくことを導いてくださる雰囲気のある学校がいいなと思いました。

月に1回くらい、地域の大人と交流ができればいいな。

子どもたちにとって、学校が安心・安全な場所であることを大前提に、地域の方々が、気軽に学校へ足を運び、子どもたちの学びを支えたり、共に楽しんだりしていただける日常を実現していけるように、TOCO-TON の取組を広げ深めていくことが大切だと感じました。